

# 岡山県の 土地改良



岡山県土地改良事業団体連合会

2011 JANUARY  
VOL. 550



## 夢と元気あふれる岡山を 目指して

岡山県土地改良事業団体連合会  
会長 石井 正弘  
(岡山県知事)

新年あけましておめでとうございます。

昨年開催しました「第25回国民文化祭・おかやま2010」は、大きな感動を残し、大成功のうちに幕を閉じました。ご尽力いただいたすべての皆様に心からお礼申し上げます。また、昨年は、都道府県対抗女子駅伝での岡山県チームの初優勝、バンクーバーオリンピック・パラリンピックでの高橋大輔・新田佳浩両選手のメダル獲得など、明るく元気の出る話題の多い年でした。

県政においては、喫緊の課題である経済・雇用対策に全力で取り組むとともに、「新おかやま夢づくりプラン」に掲げる3つの基本戦略「教育と人づくりの岡山の創造」「安全・安心の岡山の創造」「産業と交流の岡山の創造」に沿った諸施策を、さまざまな主体の方々と目標を共有し、「協働」の力で推進してまいりました。

本年は、プランに掲げる推進目標の達成に向け、取り組みの総仕上げを図ってまいります。

「教育と人づくり」では、安心して子どもを健やかに生み育てる環境づくりや落ち着いた学校づくりなど、岡山の将来を担う人づくりに取り組みます。

「安全・安心」では、防犯ネットワークや防災・危機管理体制の整備、医療体制の確保、福祉サービスの安定的な提供、食の安全・安心の確保、持続可能な社会の実現に向けた環境対策など、安全・安心に、生き生きと暮らせる社会づくりを進めます。

「産業と交流」では、本県の持つ優位性や先進性を生かし、アジア市場も視野に入れた産業の育成・強化に取り組むとともに、「観光・交流拠点おかやま」の実現を図ってまいります。また、新規就農者の確保・育成や本県の誇る高品質な農林水産物のブランド化の推進、国内外への販路拡大など、農林水産業の発展と農山漁村の再生を図ります。

さらに、昨年設置した「おかやま発展戦略会議」において、将来にわたり発展し続けていくための戦略を検討しており、その結果を踏まえ、本県の新たな発展につなげてまいります。

厳しい経済・雇用情勢が続いていることから、地域経済の安定的な回復と雇用の確保に向けて、引き続き的確な経済・雇用対策を推進してまいります。

地方分権改革の推進が強く求められている今、私は、真の分権型社会の確立に向け、中四国における拠点性の向上や県内各地域の主体的・自立的な地域づくりを協働の力で進め、将来にわたり発展し続ける「夢と元気」あふれる「暮らしやすさ日本一」の岡山づくりに邁進してまいります。

引き続き、県民の皆様のご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、ご健勝とご多幸をお祈り申し上げます、新年のあいさつといたします。



## 農林水産業の持続的発展と 農山漁村の再生を目指して

岡山県農林水産部  
部長 大森 弘介

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

ご承知のとおり、農林水産業や農山漁村は、食料の安定供給はもとより、県土や自然環境の保全、文化の伝承、癒しの場の提供などの多面的機能を有していますが、過疎化・高齢化、後継者不足等による耕作放棄地の増加などで、産業としての活力が低下し、地域の荒廃が懸念されるなど深刻な状況にあることから、地域の主要産業である農林水産業を再建し、農山漁村地域のコミュニティや自然環境の再生を図ることが喫緊の課題となっています。また、昨年4月に突然発生した宮崎県の口蹄疫では、迅速かつ的確な防疫対策が求められるなど、食の安全・安心の確保の面からも、農林水産行政の果たす役割と重要性はますます大きくなっています。

このため、県としましては、国の様々な施策とも連携しながら、新規就農者等の担い手の確保・育成に努めるほか、「くだもの王国おかやま」の代表品目として全国に誇る白桃、マスカット、ピオーネに加え、次世代フルーツの「おかやま夢白桃」と「オーロラブラック」などの生産振興とブランド化を一層推進するとともに、首都圏はもとより、香港、マレーシア、シンガポールなどアジア地域への販路拡大など「攻めの農政」の展開、さらには地産地消運動と食料自給率向上県民運動の一体的な推進等に加え、農商工連携による地場産品を活用した製品開発など、各種施策を積極的に推進してまいります。

また、優良農地の確保はもとより、耕作放棄地の再生利用に向けた各種の施策を推進するとともに、産学官の連携による地球温暖化に対応した技術開発等の新たな課題にも取り組みます。さらには、二酸化炭素吸収源対策となる間伐等の森林整備を、企業との協働も図りながら進めるなど、良好な地域資源や環境の保全整備に努め、本県農林水産業の持続的発展と農山漁村の再生を図ってまいります。

これら施策の推進に当たりましては、今後とも、市町村や農林水産業関係団体と連携・協働しながら、快適生活県おかやまの実現を目指し、「新おかやま夢づくりプラン」、「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、行財政構造改革の取り組みを着実に進めながらも、岡山の明るい未来につながる分野の充実など、伸ばすべき分野はしっかりと進めていくという考え方に沿って、それぞれの目標達成に向けて全力で取り組んでまいり所存でございます。

年頭に当たり、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして新年のご挨拶といたします。





## 新年の御挨拶

岡山県農林水産部  
参与 平井 秀人

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素から農業農村整備事業の推進に当たりまして、ご理解とご支援を頂き、厚くお礼申し上げます。さて、昨年を振り返りますと、悲しい（カ）、厳しい（キ）、暗い（ク）、削られる（ケ）、困る（コ）の一年であり、尖閣問題については、防衛力を拡充して外国からのあなどりを受けることのないよう国民誰もが強く望んだことと思います。

政権が交代し「コンクリートから人へ」と、全ての公共事業が無駄と批判され、農業農村整備事業も「ダムはムダ、農道はノー道」と無駄の象徴に上げられています。過去に造ってきたダム、農道など全てが罪であったわけではなく、中央と地方の経済格差を修正し、バランスを採るために有効であったにもかかわらず、ちょっとした過ちをもって公共事業全体がダメだと言い、マスコミもそれに同調しています。昨今の厳しい経済・雇用状況を克服するには社会資本整備のための大胆な公共投資を実施しなければなりません。

地方経済を支えてきたのは農業と公共事業であり、農業という産業を下支えする農業農村の再興から出発するのが有効であります。

そのためには、その基礎的手段である農業農村整備事業は極めて重要な施策であり、農業用水路をはじめとする、今まで生産基盤として投資してきた既存ストックを維持・保全し、有効に活用することが必要であります。岡山県の農業水利事業は、高梁川湛井十二ヶ郷用水の、その起源を平安・鎌倉時代に遡るかんがい用水から、近世の国内最大級の児島湾干拓、現代の吉井川下流域の畑地パイプラインまで多彩であります。

そのいずれもが、先人の心血を注いだ努力の結晶であり、今から20年、30年先の未来を念頭に置いて、日本再生のためには農地と農業用水の確保が我々の使命であり、いかにして健全な状態で次世代に引き継ぐことが出来るかが喫緊の課題でもあります。

平成22年度の国の農業農村整備事業の予算は、前年に比べ4割を下回る大幅な削減を行い、政府は大きな過ちを犯しました。平成23年度の国の農業農村整備事業の概算要求は対前年比で105%、460万haの農地面積で割れば10aあたり5千円であり、10aあたり1万5千円の戸別所得補償額と比べると3分の1でしかありません。食料自給率向上にとって極めて重要な農地と農業用水へのこのような国家投資では、我が国の農業基盤を劣化させ、産業としての農業が益々弱体化していくことが懸念されます。昨年3回の事業仕分けが行われましたが、真に必要なものは何か、茶番劇にならぬよう仕分けのさらなる進化を期待いたします。

21世紀の農業農村整備事業は我々自身や土地改良区等が主体となる「新しい公共」の考えで進められます。まさにその主体となる皆様は関係者間の利害対立を自立的に調整する組織として高く評価され期待されていますので、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様にとりまして本年が実り豊かな年となりますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。





## 新年の御挨拶

岡山県農林水産部  
耕地課長 小橋 浩二

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には輝かしい新年をお健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。また、平素から農業農村整備事業の推進にあたりまして、御支援と御協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、春先の低温による生育不良や、夏の猛暑から品質低下と農作物の管理には苦労した1年でした。国においては米戸別所得補償モデル事業のスタートや、新たに環太平洋経済連携協定(TPP)への交渉参加を目指し、「国内の環境整備を早急に進め関係国との協議を開始」との基本方針が決定、そして農業農村整備事業の予算が大幅に削減されるなど、農業・農村の振興を推進する私たちにとって大きな変革の年であったと思います。

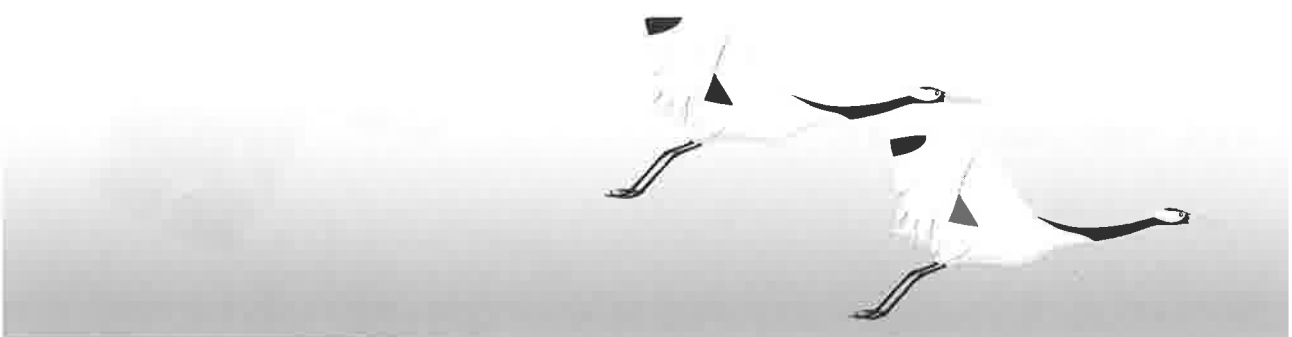
一方、県では平成9年以来、3次にわたる行財政改革の総仕上げとして、財政構造改革プランに沿って、限られた予算を今まで以上に有効に活用し、より効率的な施策の推進に努めており、本年も着実に取り組んでいくこととしています。

県下の農林水産業は過疎化や高齢化による後継者不足、輸入農産物等との競合による価格低迷、増え続ける耕作放棄地など農林水産業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあるとともに、食の安全・安心に対する消費者の関心の高まりも踏まえ食料自給率向上が大きな課題となっています。そのため、「くだもの王国おかやま」の確立やブランド品目の生産振興と販路拡大、多様な担い手の確保・育成などを旨とするとともに、食料自給率向上のため、地産地消の推進、米粉や飼料用米など新規需用米の生産拡大、農商工連携による新商品の開発と地域経済の活性化、首都圏や海外への販路拡大とPRを行う「攻めの農政」の推進など、生産と消費の両面から引き続き各種施策を積極的に推進していく予定です。

農業農村整備事業は、県民に欠くことのできない食料を生産する農業生産基盤を支えるとともに、美しく豊かな農村を創り、心豊かな農村の伝統を守り育てる重要な責務を担っていると考えています。このため、新たな「食料・農業・農村基本計画」に位置づけられた基幹的農業水利施設の戦略的保全管理や、食料自給率の向上等に資する農業生産基盤整備の推進などの実現に向け、整備の緊急性・必要性等事業効果の高い地区への選択と集中を図った上で、引き続き農業農村整備事業を着実に推進していくことが重要であり、必要であると考えています。

整備の流れは土地改良施設の全面的な改築・更新から適切な保全による長寿命化対策へとシフトしつつあり、今後は適時適切な保全対策を講じ、土地改良施設の長寿命化を図っていくことが肝要です。これら施設は、土地改良区をはじめ会員の皆様による管理の下、機能が維持されることで、農業の振興と県民の安全・安心に大きな役割を果たすことが可能で、引き続き皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の今後ますますの御健勝と御多幸を祈念いたしまして新年の御挨拶といたします。





## 新年の御挨拶

岡山県農林水産部

農村振興課長 石川 直祐

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素から農業農村整備事業の推進に当たり、格別の御支援と御協力を賜り、心からお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、小惑星探査機「はやぶさ」の地球への帰還や鈴木章・根岸英一両先生のノーベル化学賞受賞など明るい話題も多くありましたが、農業面では、全国的には宮崎県での口蹄疫の発生、県内では、夏の異常とも言える猛暑により米、特にヒノヒカリの品質低下など大きな問題が発生した年でもありました。また、昨年後半にわかに TPP（環太平洋経済連携協定）への参加も議論され始め、今後の方向によっては国内農業への大きな影響も考えられる状況にもなっています。

一方、昨年 11 月、2010 年世界農林業センサス結果の概要が公表されました。その結果によると、前回調査の 2005 年に比べて、岡山県の農業就業人口は 25.1% 減、平均年齢は 69.9 歳で全国 4 位でした。（ちなみに、広島県が 1 位、山口県が 2 位、島根県が 3 位でした。）また、65 歳以上の方の占める割合は 75.0% であり、数字の上からも農業の厳しい面を表す結果となりました。

しかし、経営体を耕作規模で見ると、岡山県では 30ha 以上の経営体が 1.8 倍の大きな伸びとなり、担い手農家等への農地集積が進んでおり、農業構造の改善が進んでいることも伺えます。

また、農業体験や地域の直売所が人気となり、農村への移住を求める人・ボランティアで棚田整備などの地域活動に参加する人等が多く現れています。物質的にはほぼ満たされた今、心の豊かさを求める人が増え、農業や農村に向けられる目も少しずつ変化してきたように思います。

農業は、人が生きるために最も重要な食料を生産する産業であり、農村地域は、その生産の場です。さらに農村地域は、水源涵養の機能やいやしの場などそこに住む人々のみならず、都市住民にとっても欠くことのできない場です。こうした意味で、農業・農村は今後も活力あふれ豊かであり続ける必要があります。このためには、農業の基本である太陽と農地と水と人を健全な形で、次世代につないでいかなければなりません。

国際化の波は避けて通れませんが、経済・財政状況がすぐに好転することも困難視されますが、一層の担い手の育成や適切な生産基盤の整備をはじめ、農業・農村の持つ良さや多面的機能への理解促進など関係者が英知を集結し、実践し、新たな時代を切り開いていく必要があります。戸別補償制度の本格実施や TPP 問題などを考えますと、今年は、もしかすると、農業や農村にとって大きな転換点の年になるかも知れません。微力ではありますが、良い方向に向かっていくよう皆さんと力を合わせて取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

今年は、卯年です。皆様方がうさぎのように飛躍し、充実した年となりますよう、また、幸せ多き年となりますよう祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。



みどり  
水土里ネット

REPORT

干拓の歴史と農業水利施設の役割を学ぶ

## 「私たちの七区」水土里ネット児島湾七区が 施設見学会を開催

10月8日(金)、水土里ネット児島湾七区(村田樹男理事長)が岡山市南区西七区の七区用排水機場や用水路、干拓堤防跡などで施設見学会を開催。地元の七区小学校4年生17名が干拓の歴史や施設の役割等を学習した。

機場建物内で、管理者がポンプを起動して、施設の役割等について説明。児童たちは大きな音と水の勢いに驚いた様子だった。最後に除塵機を動かしてゴミを回収する仕組みについて学習。実際に回収されたゴミの中には、ペットボトルやレジ袋など不法投棄されたものもあり、児童たちも気をつけようなどと話していた。続いて、干拓堤防跡地に移動し、干拓工事の歴史や方法について説明を受け、「大変な苦勞をした昔の人はすごい」といった感想が寄せられた。



干拓の歴史など説明を受ける児童



干拓堤防跡地を見学

お詫び

岡山県の土地改良549号の水土里ネットREPORTの施設見学会の記事の内容で水土里ネット高崎は水土里ネット児島湾七区(村田樹男理事長)で瀬崎小学校は七区小学校でした。ここに、お詫びして訂正いたします。

みどり  
水土里ネット

REPORT

## 水土里ネット吉井川下流・水土里ネット山南 農業用水施設見学会開催

水土里ネット吉井川下流(小林健伸理事長)・水土里ネット山南(浮田孝允理事長)は、11月15日(月)備前市坂根の坂根合同堰、和気町田原上の新田原井堰などの施設見学会を共同開催し、幸島・朝日・太伯・大宮の岡山市内4つの小学校から4年生児童77人らが参加した。

畑で利用される用水の取り口となる坂根合同堰ではその迫力を間近で体感し、解説を聞き改めてその大きさを実感していた。また、「洪水の時はどうするのか。」といった治水の役割についても質問が出るなど、井堰に対する興味の深さが伺えた。

上流の新田原井堰では、操作室にてゲートの遠隔操作や24時間体制での管理体制についての説明に興味深く耳を傾け、全国的にも数少ない小水力発電所を見学した。

また、田原井堰資料館では昔の田原井堰の写真を前に、当時の工法や構造について説明を受け、巨石を機械を使わず人の手により運び造られた500mもの井堰が300年間壊れることがなかったという構造の凄さと、先人の知恵に感心していた。

資料館横には井堰の一部分を保存復元したものがあり、上に寝転んで石の大きさを体感し、また、コロを使つての人力による石の運搬方法を体験し、機械がなかった時代の作業の大変さを実感した。



みどり  
水土里ネット

REPORT

水土里ネット牛窓町

## 「水と農地」施設見学会開催

水土里ネット牛窓町(山本晃造理事長)では11月19日(金)、野菜づくりの盛んな牛窓町の畑地かんがいの水がどこから、どのようにして送られているかを目で見、農業や水の大切さを知ってもらうために施設見学会を開催し、瀬戸内市立牛窓東小学校3・4年生児童27人の参加があった。

まず、水の取入れ口のある吉井川坂根井堰では井堰の目的と役割・構造について説明を聞き、かんがい・治水といった井堰の役割の大切さを改めて認識し、間近でその大きさと迫力を体感した。

次に、牛窓町内の畑で実際どのように使われるのかを見学した。井堰からはるばる送られてきたかんがい用水がスプリンクラーを使って勢いよく広い畑にまかれ、遠くのハクサイまで散水される様子には歓声があがった。

最後に、井堰から送られてきた水を貯めるオリーブ園ファームポンドを見学した。ここはオリーブ園内の奥にあり、3,500㎡の容量があるものの、半地下式となっているためあまり目立たないようになっている。

参加した子供たちは「近くに住んでいても、こんな大きなタンクがオリーブ園の中にあるのには驚いた。」

また、「井堰での水の管理が24時間体制で行なわれていることを知り、水管理の大切さが改めてわかった」と感想を語り、多くの子供たちが、機会があればまた参加したいと目を輝かせていた。



# 農業農村整備事業地域推進会議を開催

主催：水土里ネット岡山

水土里ネット岡山は、農業農村整備に係る最新情報の提供と意見交換を目的とした農業農村整備事業地域推進会議を開催。11月16日の倉敷会場を皮切りに県下3会場で、市町村長をはじめ、役場の役職員、改良区の理事長並びに役職員、岡山県の農業農村整備事業関係職員等あわせて251名の参加を得た。



会議では、①農業農村整備事業の現状と施策について②平成23年度農業農村整備事業概算要求について③岡山県における基幹水利施設の保全対策について④農業者戸別所得補償制度の概要について一の4項目に焦点をあて、岡山県農林水産部幹部職員より情報提供が行われた。

その後のフリー討論では、会員から地域農家の実情や事業等に関する要望、質問等があり活気に満ちた会議となった。

平成22年度 農業農村整備事業 地域推進会議参加者集計表

開催日	会場	講師	参加内訳						
			市町村	改良区	その他	岡山県	県土連	合計	
11月22日 岡山会場 (備前)	ピュアリティ まきび	岡山県農林水産部 参与 平井 秀人	会員数	7	29	2	19	16	86
			参加団体	5	22	1			
			参加人数	15	35(15)	1			
11月16日 倉敷会場 (備中)	アパホテル 倉敷駅前	岡山県農林水産部 耕地課長 小橋 浩二	会員数	10	30	1	10	12	65
			参加団体	9	17	1			
			参加人数	21(1)	21(13)	1			
11月18日 津山会場 (美作)	津山 鶴山ホテル	岡山県農林水産部 農村振興課長 石川 直祐	会員数	10	46	—	8	13	100
			参加団体	10	30	—			
			参加人数	27(2)	52(27)	—			
合計			会員数	27	105	3	37	41	251
			参加団体	24	69	2			
			参加人数	63(3)	108(55)	2			

※市町村、改良区の( )内数字は、市町村長、理事長の参加数

## 謹んで新年のご挨拶を申し上げます

水土里ネット岡山 (岡山県土地改良事業団体連合会)

- |     |      |       |   |   |        |   |   |       |
|-----|------|-------|---|---|--------|---|---|-------|
| 会長  | 理事   | 石井 正弘 | 理 | 事 | 井手 紘一郎 | 参 | 事 | 妹尾 政則 |
| 副会長 | 理事   | 石垣 正夫 | 理 | 事 | 安東 美孝  | 事 | 務 | 田窪 行雄 |
| 副会長 | 理事   | 重森 計己 | 理 | 事 | 大森 直徳  | 事 | 業 | 橋村 宗由 |
| 副会長 | 常務理事 | 岡本 信吾 | 理 | 事 | 山野 通彦  | 岡 | 山 | 池田 孝善 |
| 理   | 事    | 高谷 茂男 | 理 | 事 | 西田 孝   | 倉 | 敷 | 山本 宏  |
| 理   | 事    | 井上 稔朗 | 代 | 表 | 黒田 晋   | 津 | 山 | 松岡 茂  |
| 理   | 事    | 瀧本 豊文 | 監 | 事 | 矢野 秀典  | 外 | 職 | 員一同   |
| 理   | 事    | 片岡 聡一 | 監 | 事 | 山崎 親男  |   |   |       |



自然と文化のインターフェイスへ  
**ランデス株式会社**

本社 岡山県真庭市開田 630-1 〒719-3192  
TEL 0867-52-1141 FAX 0867-52-3515  
ホームページ <http://www.land.es.co.jp>  
本社営業所 0867-52-1021 (代) 岡山営業所 086-287-7777 (代)  
営業所/本社・岡山・山陰・広島・東広島・山口・三次出張所  
工場/落合・久米南・高梁・鏡野・西原・倉敷・広島・山口・エクステリア



**大和グレス株式会社**

本社/〒703-8244 岡山市中区藤原西町2丁目7-34  
☎ (086) 271-1221 FAX (086) 273-4005  
岡山営業所/〒703-8244 岡山市中区藤原西町2丁目7-34  
☎ (086) 271-1003 FAX (086) 271-1456  
津山営業所/〒708-1125 津山市高野本郷1693-10  
☎ (0868) 26-5155 FAX (0868) 26-5241  
長船工場/〒701-4625 瀬戸内市長船町福岡1508  
☎ (0869) 26-2040 FAX (0869) 26-4409  
英田工場/〒701-2623 美作市英田青野75-1  
☎ (0868) 74-3125 FAX (0868) 74-3126

営業所 大阪・和歌山出張所・兵庫・広島・尾道・山口・四国・松山  
工場 豊栄・河内・兵庫・久万



コンクリート二次製品 製造・販売

水路関連製品 環境保全型製品 ボックス関連製品 道路用製品  
擁壁製品 下水道用製品

地域のみなさまに  
信頼され愛される企業をめざして

コンクリート2次製品製造販売



**岡山コンクリート工業株式会社**

本社 〒703-8213 岡山市東区藤井288-1



TEL:086-279-0551

FAX:086-279-2918

<http://www.okacon21.co.jp>

津山工場/TEL:0868-29-0237  
〒708-1244 岡山県津山市上村677-1  
総社工場/TEL:0866-92-4666  
〒719-1142 岡山県総社市栗974  
熊山工場/TEL:086-995-2737  
〒709-0704 岡山県赤松市沢原795-1



**「緑の募金」**

ご協力をお願いします

緑の募金でふせごう地球温暖化

募集期間

春のみどりの月間

4月1日～5月31日

秋のみどりの月間

10月1日～10月31日

口座振込はこちらへ

ゆうちょ銀行 01270-0-5225  
中国銀行岡山駅前支店 1852041  
トマト銀行岡山駅前支店 1027972

(社) 岡山県緑化推進協会

岡山市北区錦町1-8 TEL・FAX (086) 221-9511

**毎月10日は岡山の「米の日」です**

1日3食をごはんにしてみませんか

「晴れの国おかやま」の温暖な大地で豊かな水と太陽の光を浴びて育ったおいしい岡山米を味わってください。ごはん中心の「日本型食生活」は、健康な体づくりやダイエットにも効果的です。ごはんには魚や野菜などを組み合わせ合わせた栄養バランスのとれた食事を心がけてください。



おいしいよ!岡山米

ごはんぼうや

岡山県米消費拡大推進協議会

岡山県の土地改良 題字:長野士郎書 第550号 平成23年1月1日発行

発行所 ●岡山県土地改良事業団体連合会 〒700-0824 岡山市北区内山下1丁目3番7号 県土連ビル

☎086-225-0921 fax086-226-0068 e-mail:info@okadoren.or.jp <http://www.okadoren.or.jp>

岡山支所 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館 ☎086-273-2110 fax086-272-3937

倉敷支所 〒710-0051 倉敷市幸町12-3 倉敷土地改良会館 ☎086-423-2200 fax086-426-6455

津山支所 〒709-4603 津山市中北下1300 津山市久米支所2F ☎0868-57-7661 fax0868-57-7664

印刷所 ●友野印刷株式会社 ☎(086)255-1101

